夕刊

十月二十二日發行

定價 一ヶ月金五拾錢（郵稅拾五錢）
廣告料 一行 國内 金六拾錢 大阪 金六拾錢 五號十字詰 東京 同 金壹圓 國際社電話 一行 金壹圓
編輯印刷兼發行人 柏木 哲
福島縣石城郡平町田町十二番地
發行所 磐城新聞社
發行所 平町南町一六番地 電話 一七〇番

（日曜祭日翌日休刊）

# 俳壇の人々へ

小室木々子

『自然と魂は鏡と思ふ』

悲しき時は悲しく、欣しき時は欣しく、恐れる時は恐ろしく、靜とせる時は美しく。……自然と魂は其の折々の姿を赤裸々に映し出すのである。句作態度それを言ひかへれば『自然の靜觀』となならう。自然を愛し自然を對象として俳句を作ると言ふ事は一つの宗教であり慰安であるゝ私は信じてやみません

私等の對象に對する觀察眼は自然に對する觀察眼であり、自然に對する觀察眼は、即ち私等自身に對する觀察眼であると思ふのです

それで句作すると云ふ事は己と自然と一致せねばならないと思ふのです。大自然と云ふ鏡に魂と言ふ鏡で己の姿を凝視し己と言ふ姿が歴然と解るまで他くまで精進し、他くまで努力を續けなければならないと思ふのです。私等の師は私等に教へて言ひました。俳句は詩であるが故に句高きを尚び、或は調子高く、或はじやう〳〵たる餘韻を保ち平明なるは滋味つくるなしと句ひのうるはひ、句のはたらき、句の細かさ。句の迫力のつよい感じがなくてはならぬと、句は詩であるが故に時代の反映がなくてはならず、時代の思想と文化と言葉と文字と更に詩であるが故に作者の個性と生活と感情があらねばならぬ、故に常に清新である……云々

觀念の淺き、遊戯的な句は詠まず、一歩々々力強く明日の俳句の道へ進むべきが私等の道であると思ふのです

『句は人である人は句である』

窮迫せる現代の生活闘爭の中に雄々しく戦ひ、生命の流動せる尊い俳句を生まうではありませんか

一木、一草、一莖の草、一塊の土熟愛する者は一木一草それ〳〵の生命は何を語るであらう?、自然を愛する者に自然はまことの姿物を表してくれる

贈舊知山田勇太郎氏

珠雲　小野務平

頃來財界勃將窮
鋭意猶時多偉功
有德有才人盡仰
即今何怪勢威隆

哭く

水島紀子

お伽ばなしが
生れて來さうな
そんな青空だつた
空も　海も——

船を追つて
どこまでも續いた
白いテープ

あゝ
二とせの夢——
今は空しく

今日もおくつきに、
かの日を哭く

風鈴

山路不二男

軒につるした　風りんば
うず
風に搖られて　ぶらりん
ユラユラ　チンチン　鳴
つてゐる
子どもをつけた　親風り
ん
お守するのか　あやすの
か
ユラユラ　チンチン　唄
つてる
鳴る鳴る風りん　いゝ音
です
姉さまピアノを　彈くや
うに
ユラユラ　チンチン　チ
ンチラリン

## 小説……微笑の眸

笹野純

七

谷間へ下りた二人は、小さい花が一杯咲いてる中をしづかに歩いた

『ナ、子さん！』

この言葉は敬一が谷間へ下りてからの最初の言葉だつた

『なあに？』

ナ、子の言葉も急に碎けて來て、長い間交際して居た仲のやうにやさしかつた

『僕、困つたことになつちまひましたよ』

敬一は苦笑して云つた

『わ？』

聞き返したうつくしい眼

『僕、——あなたが好きになつたんです！』

敬一の聲はさすがにふるへた

『初めてた會ひしたのに、こんな事を云ふのは變ですが……』

『そんなことは有りません わ、初めて會つたのに何時も會つたつて、同じことぢやアありません？』

ナ、子の云ひ方が敬一を驚かせた

『あたし、そんな事は平氣よ。それより若いあたし達から敬一を見守つた。敬一の欲しいのは夢なのよ』

『夢つて何？』

『あたしね、夢さえ見ればいゝんだわ、初めて會つたとか、幾度會つたとかつて云ふことは問題にはならないと思ふんですの』

『ナ、子さん！あなたは僕が好きですか』

ナ、子は答へず、正面を向き合つたまゝ、敬一を見守つた。敬一もその黒い眼を見つめてゐた

二人は手を握つたまゝ立つてゐた

敬一は情熱の炎が全身を燃やすのを知つた。言語に絶した感情が、胸までこみ上げて來るのを知つた。ナ、子も同じ思ひだつた

突然、敬一はナ、子に云つた。そしてやはらかな手を摑んだ

ナ、子はそれに答へず、正面を向き合つたまゝ、敬一を見守つた。敬一もその黒い眼を見つめてゐた

二人は手を握つたまゝ立つてゐた

敬一は情熱の炎が全身を燃やすのを知つた。言語に絶した感情が、胸までこみ上げて來るのを知つた。ナ、子も同じ思ひだつた

## 日常集

山倉眞砂夫

○わが歸り待ちかねてすぐ膳につくこの子はすこしせはし過ぎたる

○たまさかの肉を喜び喰らふ子の今宵の食は母よりも多き

○あとさきの見さかへもなく喰らふ子の食の多きを母は叱りぬ

○喰らふだけ喰らひてしまひぬ愛し子の重き瞼を見るは笑ましき

鎌田定夫

○たまりたる手紙の整理なしつゝは無沙汰に思ひ當ることあり

## 小説　高橋是清

松浦泉三郎作

(149)　佐々木今朝吉畫

募債の船出　(三)

事態愈々急迫！

是清は即日歸郷中の松尾總裁に打電し歸京を促し、一方三崎正金副頭取を招いて、兼ねての計劃の實行に着手した。特に、民間の需要に屬する輸入品で、まだ船積前の物に對しては、解約又は減額の手段を取る事を命じ、ひたすら正貨の維持を謀る事にした

更に又一方に於いては、正貨輸出禁止の得失問題に關して考究するところがあつた。然し、假りに今禁止の擧に出づるとしても、開戦の曉は、外國より購入すべき軍需品も多額に上る見込で、到底外債を起さずには濟まぬ事が判つてゐるので、然し、であるから、最初から正貨輸出禁止の擧に出づる事は海外に對する信用を失墜しひいては後日公債募集に際して、不利な影響を及ぼす事も考へねばならなかつた

反對に、この儘正貨の輸出を自由にしておけば、流出の勢も自ら緩やかになる

敦に派遣し、時期を見て、外債募集の擧に出でしむる事に一決した

扨、その人物は？

松方伯は

『高橋是清こそ』

と、言つた。が、招かれて相談を受けた是清は

『お見出しを戴いた事は感謝に耐へまもぬが、然し、辭退申上げます。この最適任者は私見申上げますれば園田孝吉氏を第一と存じ上げます』

と、答へて辭去した

これと前後して、曾禰藏相及び松尾總裁は、共に伯倫敦に御派遣の事は、今日に於て、最も重要な正金銀行の業務を指揮する副總裁を失ふ事となり、眞に困惑致しますので……』

と、同じ意味の事を陳べて引下つた

更に一方、是清の推薦に依つて旨を傳へた園田孝吉からは

『目下の健康狀態到底海外行きを許さず——』

と、言つて、辭退して來た

財務官の人選は、かくて行悩みの狀態に陷つた。他に、即時倫敦に派遣し得る適任者が見出し得ないのである。が、事は急々運ばねばならなかつた

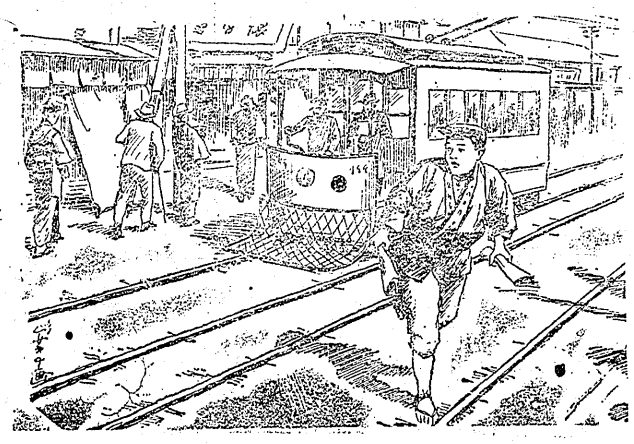
兩元老は全く困惑した

そと間、戰雲はどう動いてゐたか？

當々拂曉の途にのぼつた聯合艦隊の分遣隊は、二月九日、早くも仁川沖に撃破し、本隊も亦、旅順港口外に同日敵艦を襲撃、三隻撃沈して、戰雲の下に荒ぶる白波を鮮血に彩つた

捷報は内部に傳はり、熱狂した國民の聞の聲全國に揚がつた

そして翌十日、明治大帝は、露國に對する、宣戰の大詔を下し賜ふたのである



日　23　△西園寺公望公誕生（嘉永二）△始めて警官を置く（明治四）△大分で我國初の陪審裁判（昭和三）△北支民衆運動擴大河南に波及（同一〇）

10月

を訪れ

『高橋是清を財務官として

平げやみ

毎度有う難御座います
味覺の秋となりました
滋養豊富な
ニコ〳〵の
もち飴を
おすゝめ致します。
御進物用箱入 ¥20 30 50 70 1,00
御下命次第迅速に配達致します。
平町新川町
ニコ〳〵飴本舗
電話四四九番

耳鼻咽喉科専門
平町南町一六番地
大和田醫院
（入院隨意 病室完備）
電一七〇番

入院隨意（自炊の便あり）
外科専門
X光線科
平南町
上田醫院
病室完備
（電話一二九）

建築請負
製材
同用
各國銘木材木
秋山材木店
店主 秋山市造
植田町 電話六二番

冬の通學服……秋冬背廣特賣
本年最底値段仕入
特賣期日…九月廿八日ヨリ
斷然安い正札
信用堂洋服店
平町三丁目 電六一三

| | |
|---|---|
| 小學小倉 | 0.95ヨリ |
| セル | 2.90ヨリ |
| サージ | 3.70ヨリ |
| 小學水兵 | 1.50ヨリ |
| セル水兵 | 2.80ヨリ |
| サージ水兵 | 3.50ヨリ |
| 其他男女幼年柄服……毛糸製品各種 | |
| 紺黒セルサージ立エリ上下 | 7.50ヨリ |
| 紺黒セルサージ三ツ組 | 12.50ヨリ |
| 柄ウーステツト三ツ組 | 12.00ヨリ |
| 【特價】 | |
| パパリー・レンコート | 2.00ヨリ |
| セルトンビ | 6.00ヨリ |
| 外各種豊富 | |

◎日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社重油特約店
關彭商店平支店
電話六一番
本店 水戸線下館驛前
（電話五五・三三九番）
茨城縣土浦町田宿
（電話六五三・八二四）
營業種目
石油、揮發油、輕油、重油、モビール油、マシン油、機械油、胡麻油、種油、植物油、カーバイト、石炭、コークス、ストーブ
支店所在地
常磐線關本驛前（電話平潟五四）
常磐線四倉驛前（電話四八）
久慈濱支店（電話一三七番）
小名濱支店
海上給油所
大津、平潟
及油槽所
江名濱

夜診
胃腸病
性病
内科
胃腸病科
花柳病科
性病科
皮膚科
專門
松村醫院
胃腸性病科
（平町南町電一〇七番）
（見習看護婦募集）
診療

一家に一瓶
新時代の
家庭常備藥

水むし
に
小さな怪我
創傷
膿物
毒虫
とびひ
皮膚搔痒症
しらくも
いんきん
たむし
はたけ
戰傷

強力殺菌消毒最新藥
ロクマポシ
小傷なさか毒丹ら病スルイワ・病傷破・風傷の如き大き傷なれる生が安不なき

繃帶の面布塗つ且てしに力强性浸深、り傷にれその傷創丁ムチヨ・水素水化酸過・に力殺消菌殺の劑本すせ蝕腐を

本品のアメリカにて發賣せらるゝや近代科學の發明として迎へられ、絶賞にして全米を風靡し、わが國に於ても、醫家にありては既に各科に應用せられつゝあり新時代の家庭常備藥として推薦致度

販價 〇・三〇

ホシ胃腸藥錠 〇・二〇 〇・五〇 一・〇〇 二・〇〇
ホシチヤコール錠 〇・五〇 一・〇〇

福島縣平町三丁目三〇
星チエンストア平支部
一般藥品 賣藥化粧品 醫療器械
ホシ藥舗
電話四二九番

# お、二十年振りに 仰ぐ名譽の聯隊旗

## 秋の國軍

### 本町通りて市街戰展開

春二八 平三二

第二師團の秋季機動演習に先立つて佐伯聯隊長の指揮する若松歩兵第二十九聯隊將兵五百餘名は愈よ來る二十九日平町に乘り込む、二十年振りで光輝ある聯隊旗を迎へる平町では二十六日これが奉迎の打合會を開くが、當日は中、小學校生徒各種團体が驛前より役場道路の兩側に堵列、軍旗はこの奉迎の中を進んで一たん町役場構内に安置され、一般の奉拜を許可した上學生軍との演習に移る豫定である

尚同聯隊は科學部隊を編成 本町通りで防毒マスクや新兵器を使用して市街戰を展開すると云ふ

## 錦劇場開き

### 盛況裡に了る

錦村錦劇場の舞臺開きは廿一の兩日に亘り歌舞伎劇松本錦枝一行を迎へ擧行したが、招持客千餘名で立錐の餘地なく中休み時間を利用して拍手の内に村長金成欽次氏の挨拶あり好天氣に惠まれ幸先良く盛況裡に終了した

## 兵事主任會

平署管内兵事主任會秋季總會は來月九日午前九時から小川村役場に開き恤護及退會者の表彰、動員事務の研究をなす

## 青年校査閲

永年勤續退職者は小川村櫛田政松、鹿島村菌部嘉雄の兩氏、終つて夏井川溪谷で觀楓會を催す

郡下の執行日割

本年度青年學校教練査閲は左記日割で本多中佐により執行される

十一月十九日—川前 二十日—永戸、澤渡 二十一日—三阪

## 來年の成績如何で

### 小壽雞 解禁か

胸躍らす地方銃士

平營林署では永戸村戸渡地で來年中には約一千羽内外の國有林が優秀な狩獵場として上る見込なので其の實際としての林相を備へて居るに繁殖振りを見た上從來の禁着眼し先年來之を國營狩獵場とし、その第一着手として昨年神奈川縣より小壽雞の張り込みを以て成り行き處から地方の狩獵家は多大を注視してゐる

## 米價尻上り

きのふ俵米共販

昨二十一日行はれた石城販聯の俵米共販は出荷旺盛の三十俵だけで相場は十一圓三十錢の高値を示した

## 永年の運動奏効

### 火保料率引下げ

一一から八、九程度へ

平町の火災保險料率は外觀諒とするに至り、從來の高上一見近代的小都市の体裁率一一を九乃至八に低下すを備へて居る爲、人口其他の意向を洩らし近く決定を經濟的實力に比し些か過重見るものと看取さるるが、の觀あるので之が引下げは右實行後は保險金年額五萬永い間の懸案として消防其圓の輕減を來す事となるの他關係者によつて熱心な運で一般から非常に喜び迎へ動を續けられて來たが、最られてゐる近保險組合でも町の現勢を

## 警鐘一點打で

### 町民の注意を喚起

來月五日防火運動デー

來月五日が防火運動デーなので目下關係當局ではこれが宣傳方法に就いて協議を進めて居る、平署でも縣消防協會からの實施計劃案に基きポスター、チラシの撒布並に興行場に於ける宣傳方法を明後二十四日の消防組頭會に協議するが、縣消防協會から縣下各署に通知した消防組、會社工場等に於ける實施案は左の如し

一、各消防組に於て午前七時一齊に約五分間警鐘一點打或はサイレンに於て火の用心を宣傳

一、各消防組に於て機械器具の取扱放火試驗其他消防との實演を爲し一面には自覺を促すべく一般民の觀覽に供すること其の他組員の行進運動

一、會社、工場、病院、興行場、學校、公會堂及び各家庭に於ける火氣取扱所消火器非常口等一齊檢査

## 出す なす 火事

## 木炭査定會

出陳百八十點

縣下木炭査定會は迫經濟部長以下を迎へて今二十二日午前九時から平署會議室で開いたが出陳木炭内譯左の如く合計百八十二俵

福島三六俵 若松三〇 田島二七 白河二九 三割を筆頭に約三萬圓の巨額なる幸福を齎すかに就き、

## 滯納三萬圓

平町の町税整理

平町役場の惱みの種、町税の滯納整理は毎年末にかけ斷行されてゐたが今年は十十一兩年度の雜種税、戸數

## 愈々立派に舗裝して

### 川岸通りの新市街化

一萬二千圓二ヶ年繼續事業で着工

### 躍進平町に一新風景點出

平町會は昨二十一日午後二時から開き既報愛谷江筋利用一時金三百五十圓の支出を可決したが、町永年の懸案たる聚樂館裏から五丁目に至る川岸通りの暗渠新市街化は愈々右決定を轉機として、工費一萬二千圓を投じ、初年度五丁目—醫通り迄、次年度署前通り—聚樂館裏の二ヶ年繼續事業として近く起工する事となつたが、永い間沿線居住民の塵芥投棄及び汚水の放出等で保健衛生上乃至町の体面上兎角問題視されて來た同區域の整然たる舗裝新市街化は平町勢發達上劃期的の試みとして完成後を期待さるるに至つた

電話交換事務を開始することに決定した

。。。